



Ver.7.0.1 リリースノート

NTTアドバンステクノロジー株式会社

- WinActor Ver.7 とは
- 変更点
- 制約事項

WinActor Ver.7 とは

WinActor Ver.7シリーズ とは

WinActor Ver.6 シリーズをリメイクした全く新しいWinActorです。Ver.7シリーズでは、最大の特徴である「現場フレンドリー」の思想を一層進化・深化させ、初心者はもちろん上級プログラマにとっても対応可能な、誰もが使いやすいRPAを追求します。

Ver.7シリーズ最初の版である Ver.7.0.1 は、以下の特徴があります。

1. GUI刷新

- アイコン、フローチャート、見た目を新しくデザインしなおしました。
- レイアウトの調整を行いました。

2. 開発環境刷新

- シナリオエディタの大幅な改善を行いました。

3. 非Java化

- Javaは不要になり、多くの処理が高速化されています。

4. これまでのWinActor との関係

- Ver.5 または Ver.6 のシナリオを読み込んで実行できます。*
- Ver.5 または Ver.6 と同じPCで同時に使用できます。**

*制約があります。P37を参照してください。 **制約があります。P38を参照してください。

リリースノート

変更点

変更点の表記について

このリリースノートではライセンス、機能毎の違いを説明するために、次の表記を用います。



この表記がある場合、NL版でご利用できます。



この表記がある場合、FL版でご利用できます。

FULL

この表記がある場合、フル機能版でご利用できます。

実行

この表記がある場合、実行版でご利用できます。

管理

この表記がある場合、管理実行版でご利用できます。

ハードウェア推奨環境および
ソフトウェア動作環境が変わります。



ハードウェア推奨環境

項目	推奨スペック
CPU	Core i3-6100 (2コア 3.7GHz)以上のx86またはx64プロセッサ
メモリ	2.0GB以上
HDD	空き容量3.0GB以上
画面	FHD(1920×1080)が表示可能であるもの
サウンド	シナリオ中で音を出すためのサウンド機能(スピーカを含む) ※音機能を使わない場合には不要

※ 推奨環境に満たない場合、操作性や応答性能が低下する可能性があります。

ソフトウェア動作環境

項目	仕様
オペレーティングシステム	Microsoft Windows 10 Pro Microsoft Windows Server 2016
実行環境	Microsoft .NET Framework 4.8以上

※WinActorをインストールした後にソフトウェア動作環境を変更すると正常に動作しない事があります。

WinActor Ver.7.0 インストール後の .NET のバージョン確認の方法



WinActor Ver.7.0 は、インストール時に .NET のバージョンをチェックし、4.8 以上でない場合は警告を表示して注意を促します。しかしながら、インストール後に .NET のバージョンが変わってしまった場合は警告は表示されません。このような場合、WinActor Ver.7.0 が正常に動作しない場合があります。

以下の手順で、.NET のバージョンを確認することができます。.NET のバージョンが変更された可能性がある場合は、以下の手順を用いて、WinActor Ver.7.0 が動作可能な .NET であるかどうかご確認ください。

1. Windows の「コマンドプロンプト」を実行する。
「Windows システム ツール」の下にあります。
2. 以下のコマンドを実行する。
`reg query "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\NET Framework Setup\NDP\v4\Full"`
3. コマンド実行結果の「Version」が、4.8 以上であれば問題ありません。

実行例

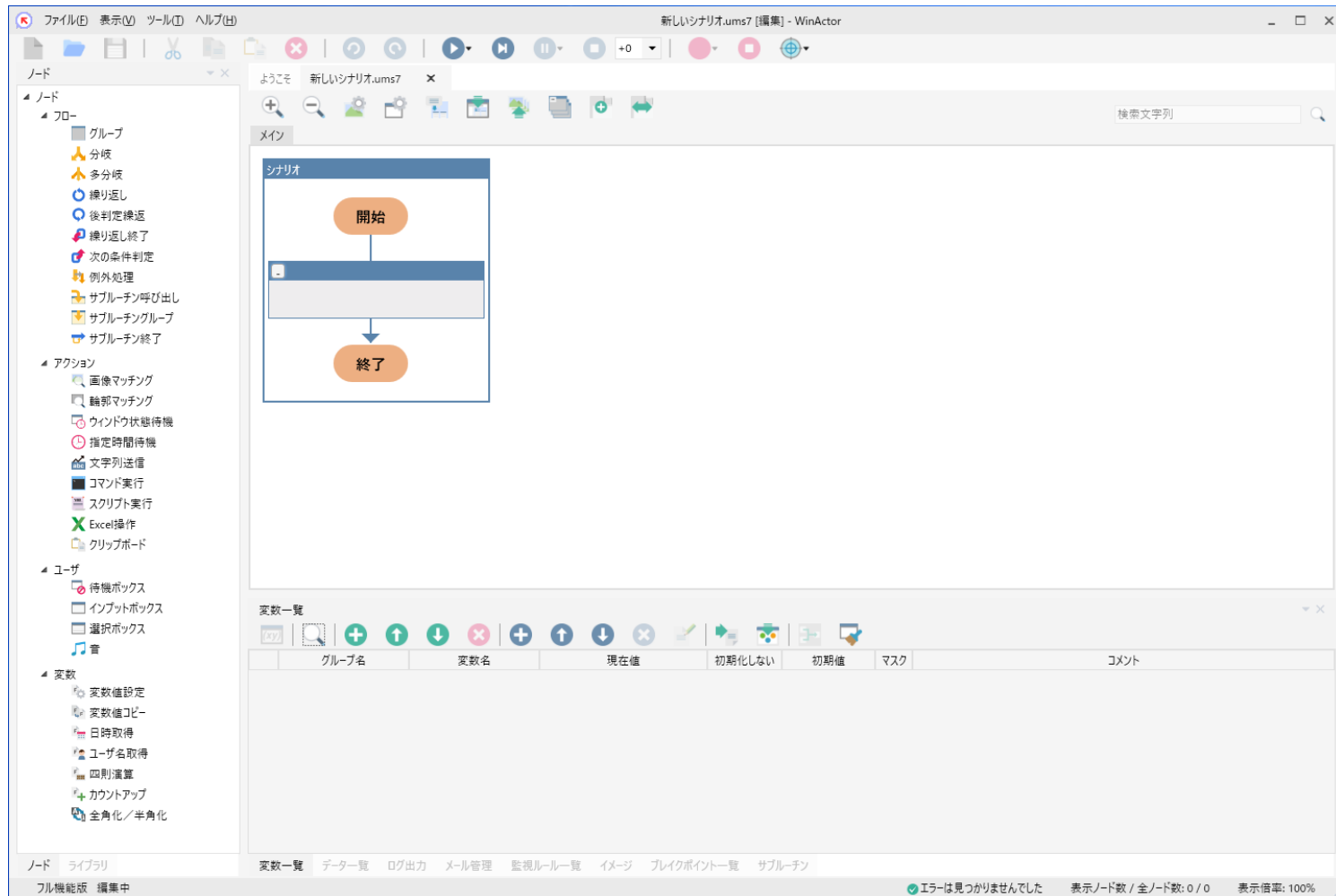
```
C:\>reg query "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\NET Framework Setup\NDP\v4\FULL"
```

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\NET Framework Setup\NDP\v4\FULL
CBS    REG_DWORD    0x1
Install REG_DWORD    0x1
InstallPath REG_SZ    C:\Windows\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319\
Release REG_DWORD    0x80ea8
Servicing REG_DWORD    0x0
TargetVersion REG_SZ    4.0.0
Version REG_SZ    4.8.03752
```

4.8 以上であれば問題ありません。

GUI刷新 – フル機能版

画面構成が大幅に変わります。



GUI刷新 – 実行版/管理実行版



WinActor screenshot showing a GUI refresh process for a Fibonacci sequence calculation.

The main window displays a scenario titled "fibums7" with a flowchart for calculating the Fibonacci sequence. The flowchart includes a start node, a loop condition "IF N < 2", and a sub-process "サブルーチン終了" (Subroutine End).

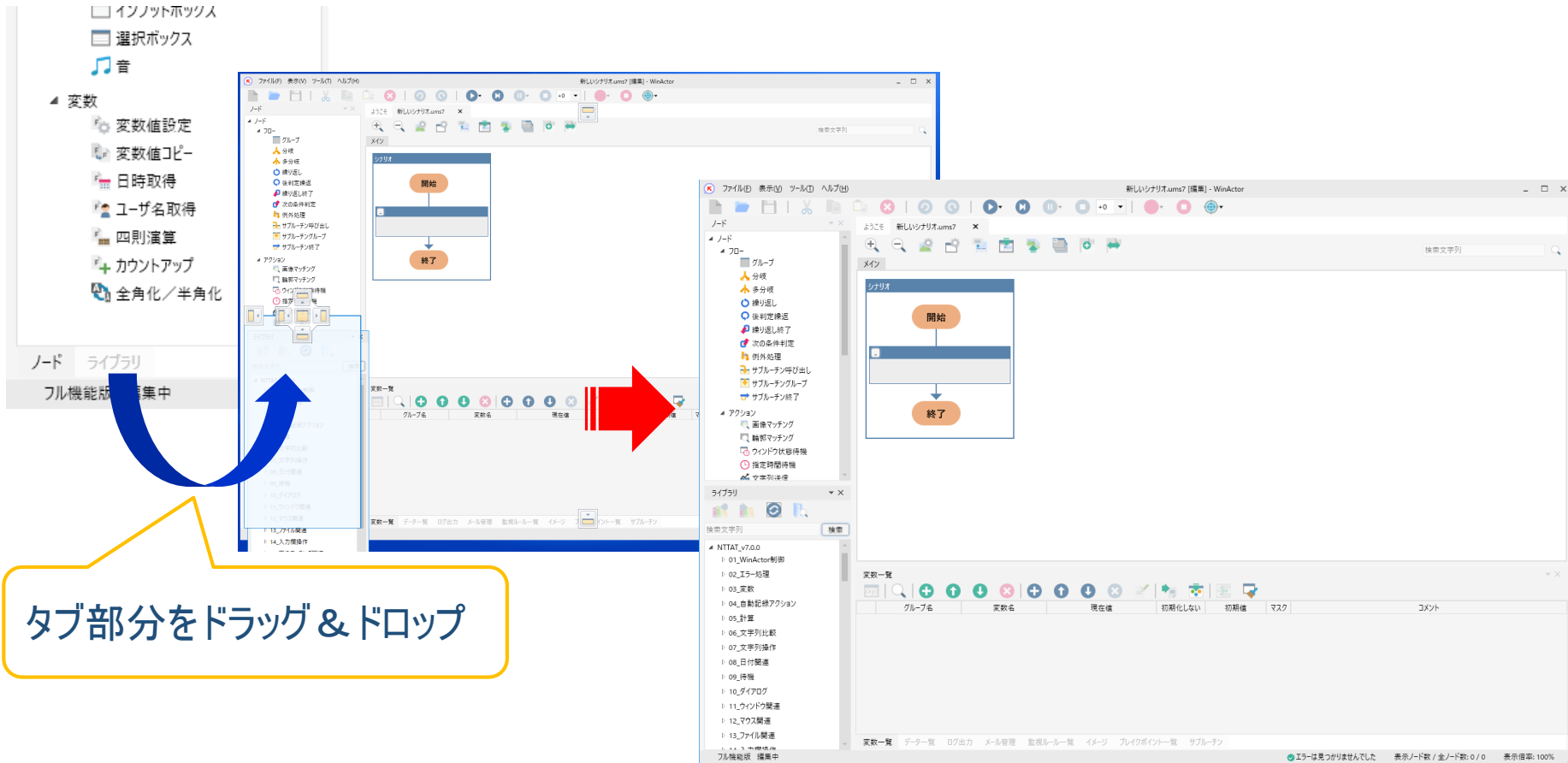
The bottom panel shows a variable list (変数一覧) with the following columns: グループ名 (Group Name), 変数名 (Variable Name), 現在値 (Current Value), 初期化しない (Do not initialize), 初期値 (Initial Value), マスク (Mask), and コメント (Comment).

グループ名	変数名	現在値	初期化しない	初期値	マスク	コメント
▼ グループなし	N		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
	TMP1		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
	TMP2		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
	FIB		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

実行版 (Execution Version) status bar: エラーは見つかりませんでした (No errors found). 表示ノード数 / 全ノード数: 12 / 12 (Number of displayed nodes / Total number of nodes). 表示倍率: 100% (Display magnification).

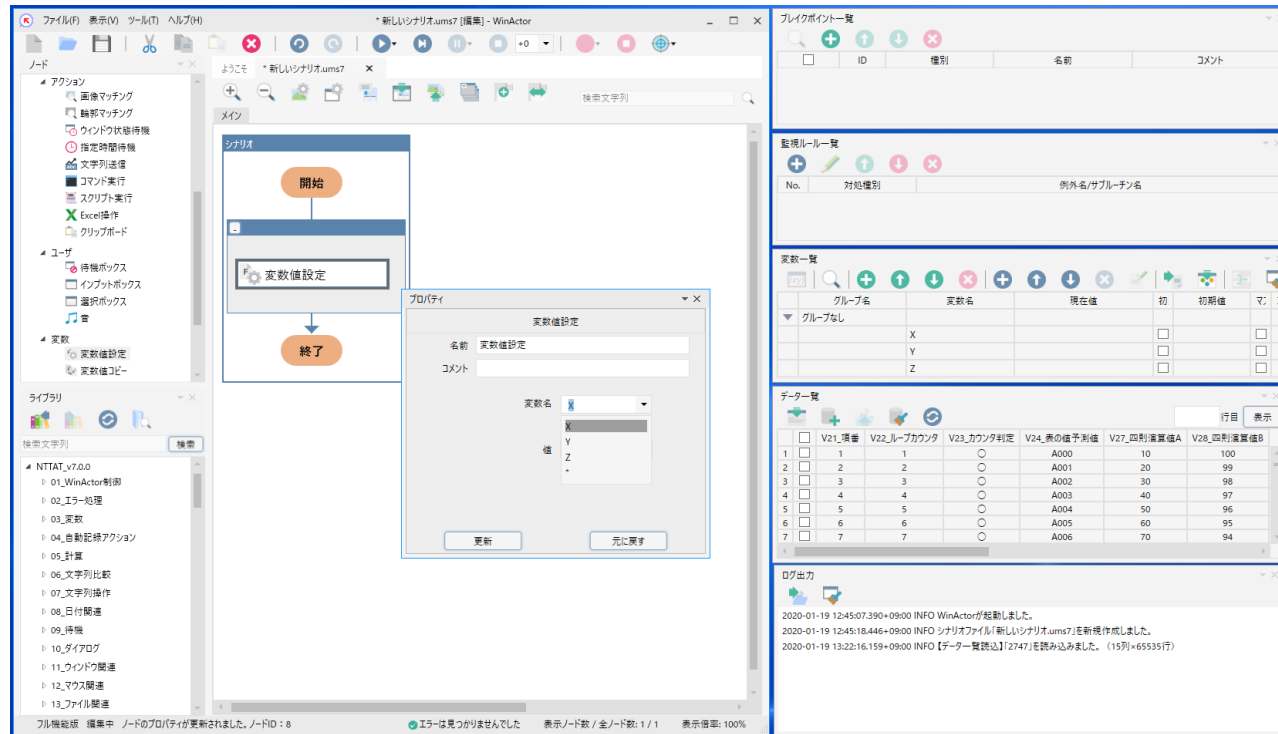
GUI刷新 – ドッキングウィンドウ

各領域は任意の場所に
移動させることができます。



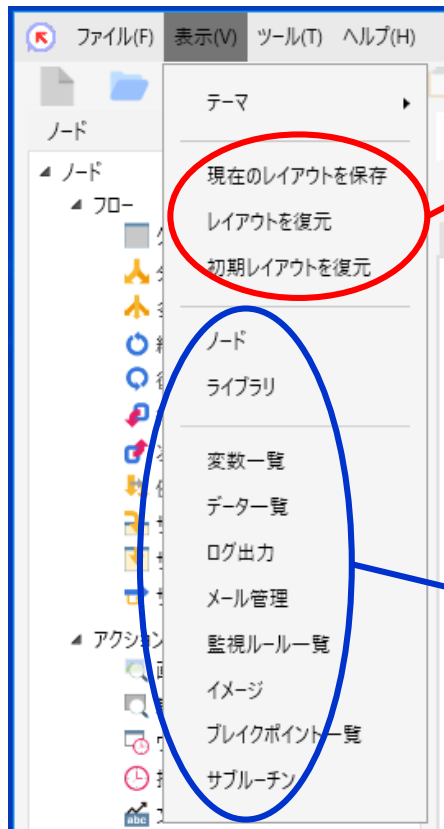
GUI刷新 – ドッキングウィンドウ

各領域はメインウィンドウの外に
配置することもできます。



環境にあわせ好みの配置でシナリオの操作を行うことが可能となります。

WinActor終了時に
ウィンドウの配置状態（レイアウト）を記録し、
次回起動時に復元します。



メニューより

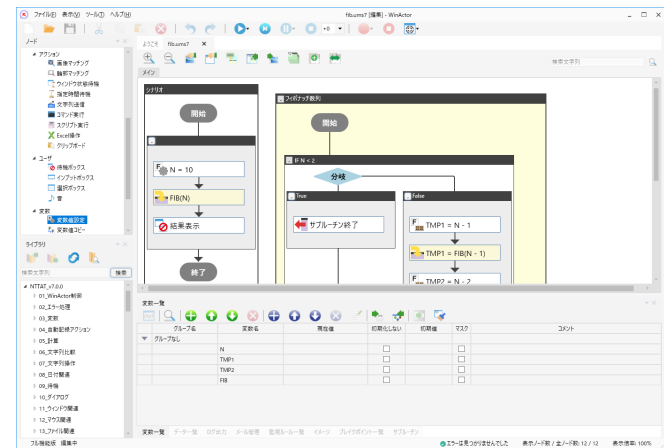
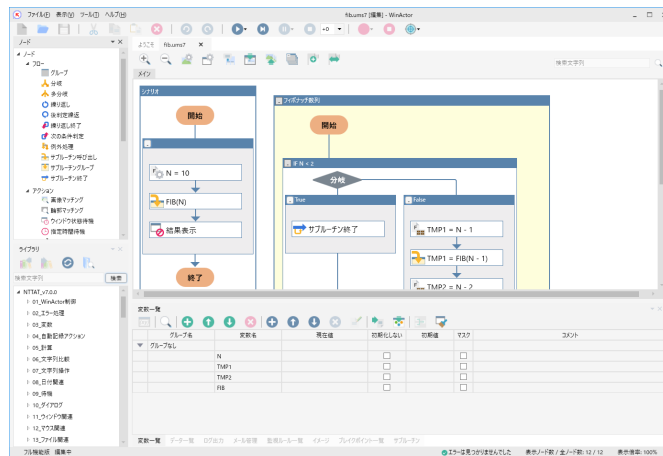
現在のレイアウトを保存したり
保存したレイアウトを復元したり、
インストール時の初期レイアウトを復元したり
することができます。

表示を削除した領域はメニューより再表示さ
せることができます。

GUI刷新 – テーマ

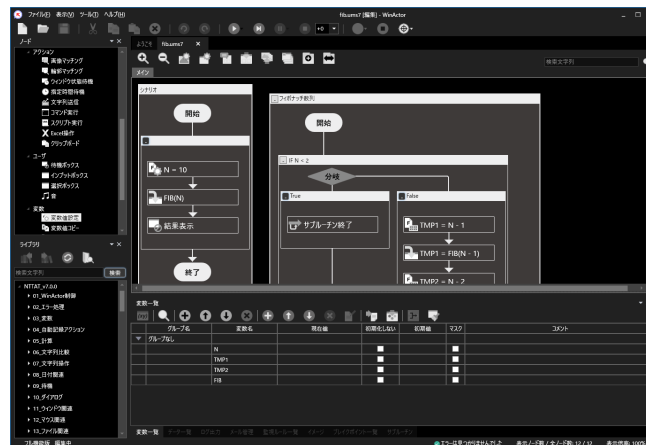
ウィンドウの配色について

三つのテーマを選ぶことができるようになります。



メイン

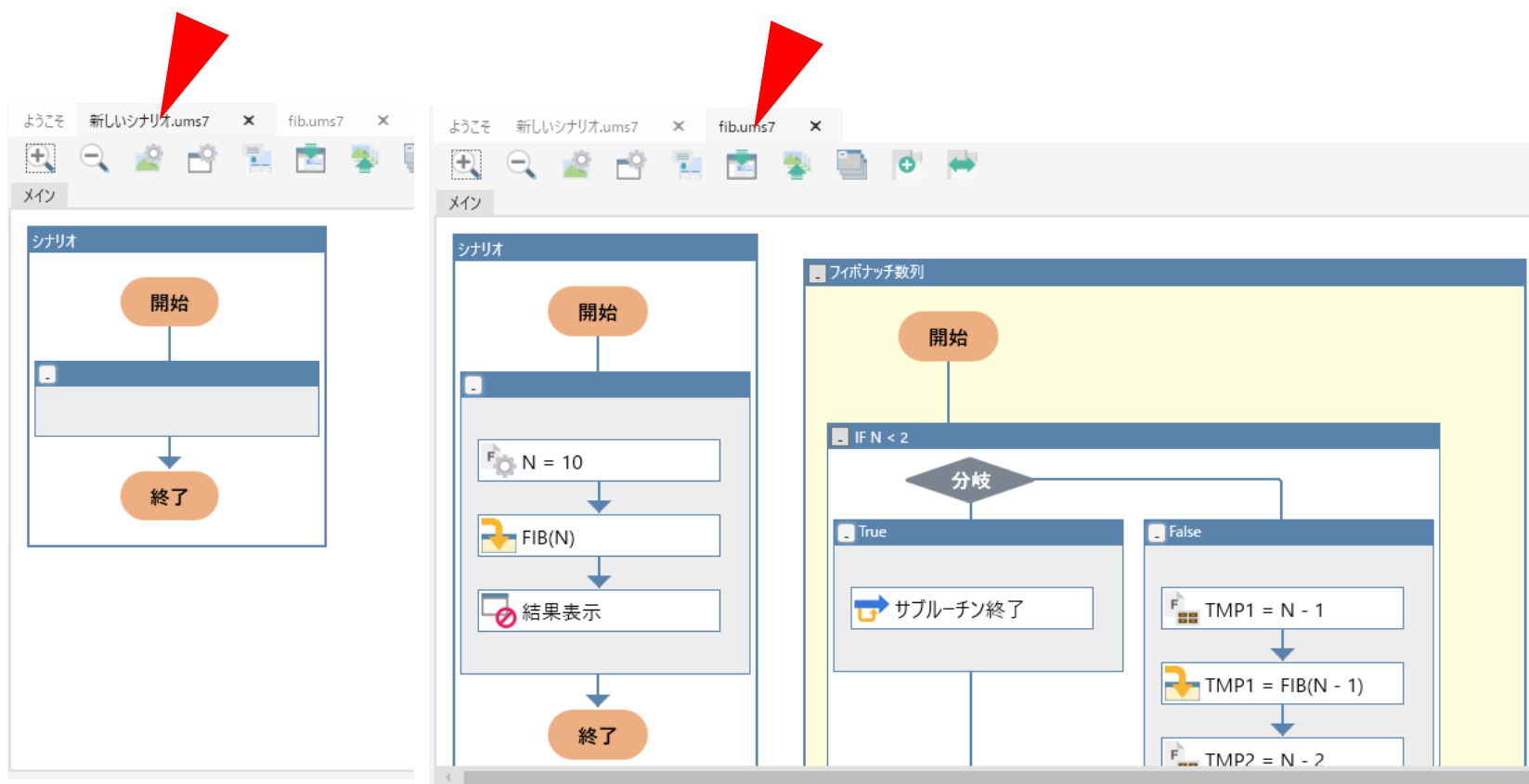
クラシック



ダーク

同時に複数のシナリオファイルを開くことができるようになります。

タブを切り替えることにより、操作対象のシナリオを切り替えることができます。

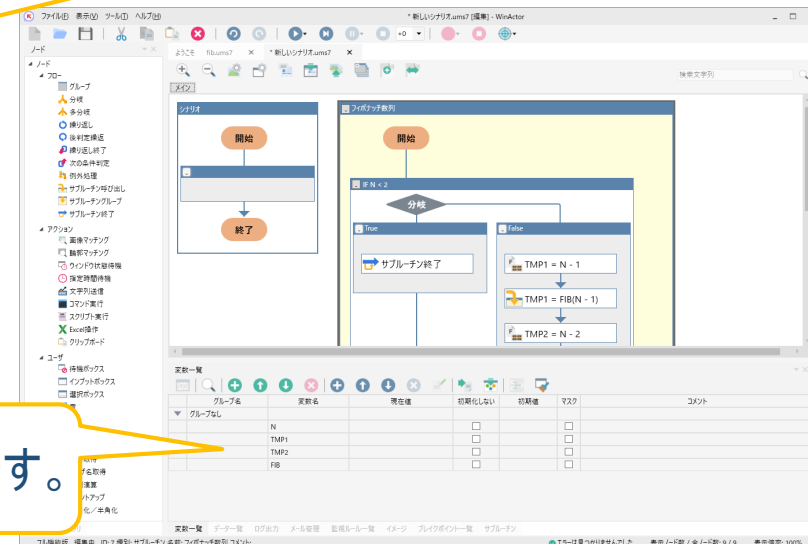


シナリオ間で要素をコピーすることができるようになります。

① 要素を選択し、「コピー(Ctrl+C)」または「切り取り(Ctrl+X)」

② 貼り付けたいシナリオファイルにて、「貼り付け(Ctrl+V)」

③ 要素が使用していた変数も含めてコピーされます。



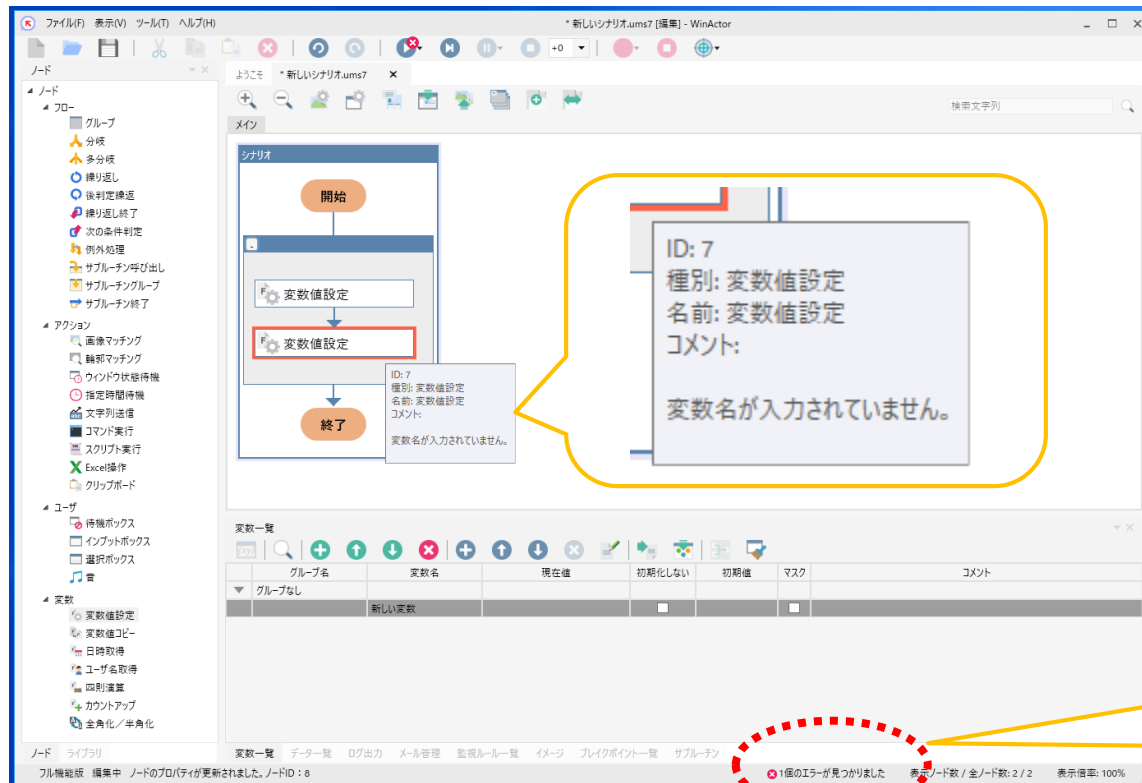
シナリオのエラー報告の方式が変更されました。



エラーのある要素が**赤枠**で表示されるようになります。

エラーのある要素にマウスを当てるとツールチップにエラー内容が表示されるようになります。

フッターにエラーの個数が報告されるようになります。

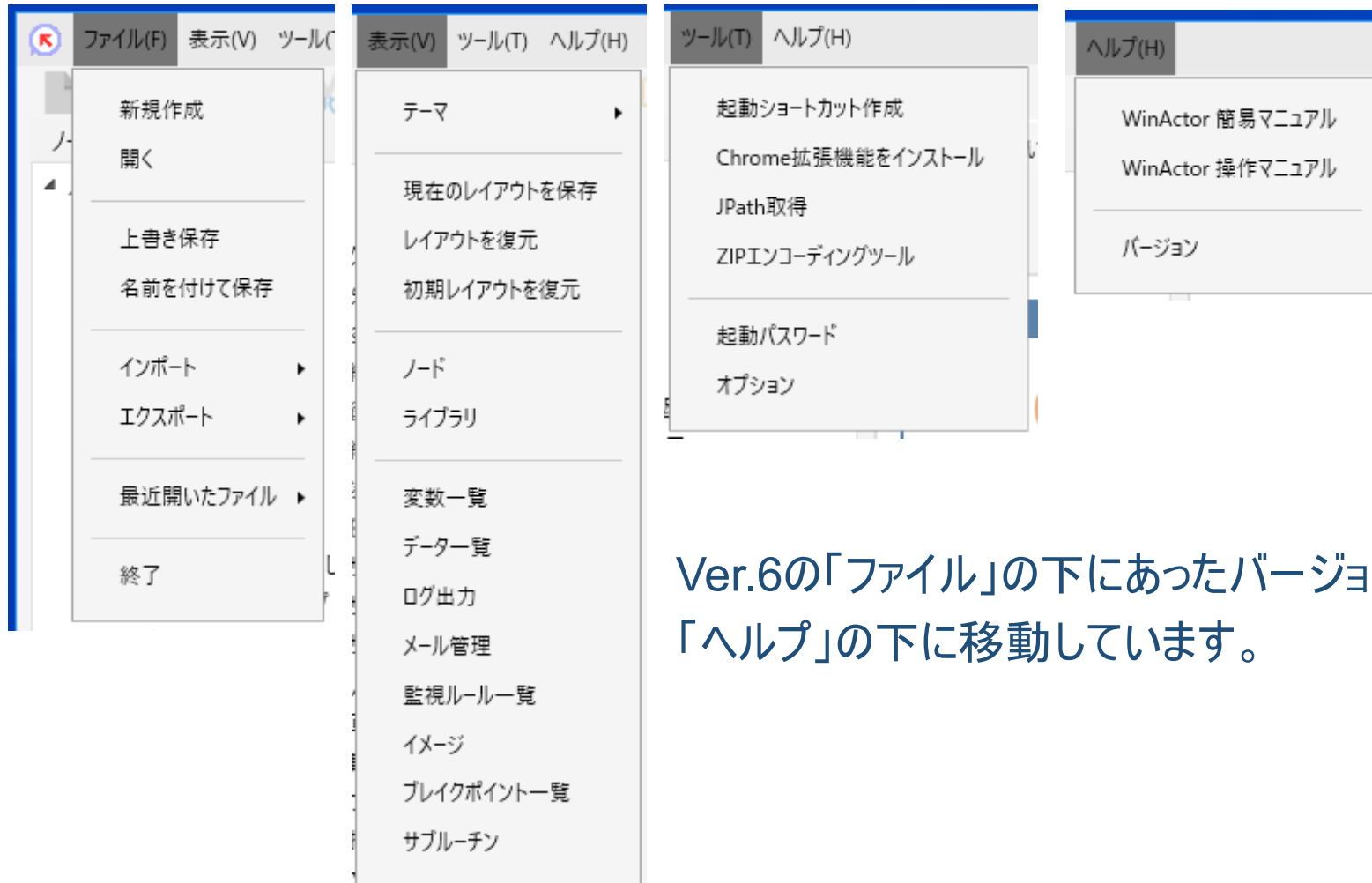


エラーのある状態でもプロパティ画面で更新ボタンを押下し、他の要素の編集を行うことが可能となりました。

✖ 1個のエラーが見つかりました

✔ エラーは見つかりませんでした

メニューの構成が変更されます。



Ver.6の「ファイル」の下にあったバージョン情報は「ヘルプ」の下に移動しています。

分岐、多分岐、繰り返し、後判定繰返の
条件式で扱える数値の範囲を広げました。
小数が利用可能となります。



対象条件式 $=, \neq, >, <, \geq, \leq$

整数範囲 $-9,223,372,036,854,775,808 \sim 9,223,372,036,854,775,807$

Ver.6 整数範囲 $-2,147,483,648 \sim 2,147,483,647$

小数 $-1.79769313486232E+308 \sim 1.79769313486232E+308$

整数と小数の比較も可能です。

今までユーザライブラリを利用して行っていた数値比較の多くが、
条件式で直接比較を行うことが可能になります。

四則演算ノードで扱える数値の範囲を
広げました。小数が利用可能となります。

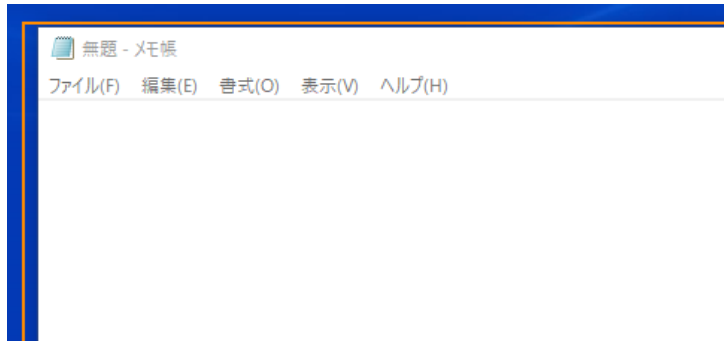


整数範囲	$-9,223,372,036,854,775,808 \sim 9,223,372,036,854,775,807$	
Ver.6 整数範囲	$-2,147,483,648 \sim$	$2,147,483,647$
小数	$-1.79769313486232E+308 \sim 1.79769313486232E+308$	

整数 \pm 整数, 整数 \times 整数 は整数範囲に収まる場合は結果は整数となります。
整数 \div 整数は、割り切れる場合は整数、割り切れない場合は小数となります。
整数と小数の四則演算の結果は小数になります。小数の演算では誤差が生じます。
(表示上整数に見える場合もあります)

シナリオの挙動が変わる可能性があります。

ウィンドウ枠の座標の取得方法が変更されます。



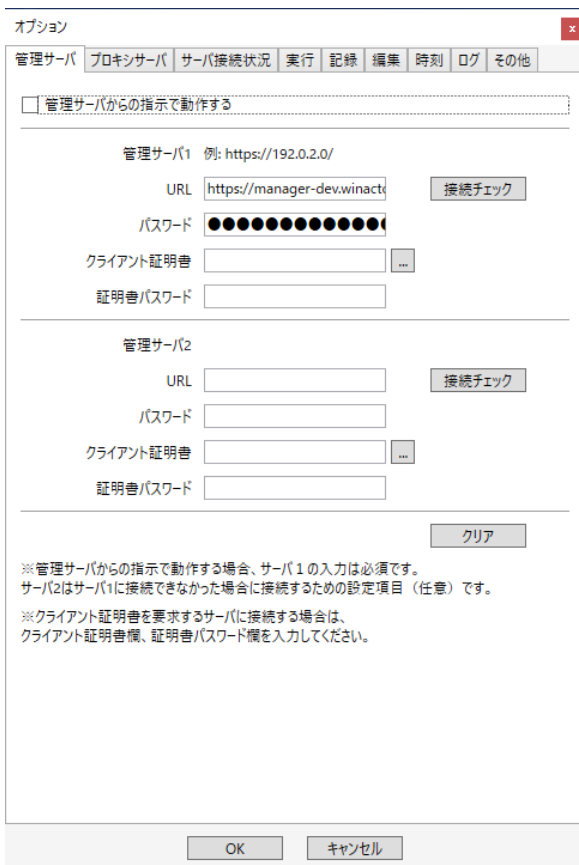
Ver.6では、ウィンドウの影の領域を含んで枠のサイズが取得されています。この影はユーザのOSテーマ設定等で変わる可能性があります。



Ver.7では、シナリオの挙動がユーザのOSテーマ設定に依存しないようにするために、影の領域を含まずにウィンドウ枠のサイズを決定します。

Ver.6のシナリオファイルにてウィンドウの4隅からの相対座標で指定されたアクションがVer.7では正しく動かなくなる可能性があります。

オプションダイアログにサーバ設定をまとめました。



オプション

管理サーバ プロキシサーバ サーバ接続状況 実行 記録 編集 時刻 ログ その他

☐ 管理サーバからの指示で動作する

管理サーバ1 例: https://192.0.2.0/

URL 接続チェック

パスワード

クライアント証明書 ...

証明書パスワード

管理サーバ2

URL 接続チェック

パスワード

クライアント証明書 ...

証明書パスワード

クリア

※管理サーバからの指示で動作する場合、サーバ1の入力は必須です。
サーバ2はサーバ1に接続できなかった場合に接続するための設定項目（任意）です。

※クライアント証明書を要求するサーバに接続する場合は、
クライアント証明書欄、証明書パスワード欄を入力してください。

OK キャンセル

Ver.6のバージョン情報にあったサーバ設定をオプションにまとめました。

管理サーバ、および、プロキシサーバの設定を合わせて行うことができます。



FULL

実行

管理

オプションダイアログにサーバ設定をまとめました。

オプション

実行 記録 編集 時刻 ログ その他

管理サーバ ライセンスサーバ プロキシサーバ サーバ接続状況

次回起動時に有効にしたい機能を選択してください。
ライセンス取得のための、ライセンスサーバのURLを設定してください。

☒ フル機能版

☐ 実行版

☐ 管理実行版

☐ 管理サーバURLと同じURLを使用する

ライセンスサーバ1 例: https://192.0.2.0/

URL 接続チェック

パスワード

クライアント証明書 ...

証明書パスワード

ライセンスサーバ2

URL 接続チェック

パスワード

クライアント証明書 ...

証明書パスワード

クリア

※ライセンスを取得する場合、サーバ1の入力は必須です。
サーバ2はサーバ1に接続できなかった場合に接続するための設定項目（任意）です。
※クライアント証明書を要求するサーバに接続する場合は、
クライアント証明書、証明書パスワードを入力してください。

OK キャンセル

Ver.6のバージョン情報にあったサーバ設定をオプションにまとめました。

機能選択とライセンスサーバの設定は一つのタブにまとめられています。

管理サーバ、プロキシサーバ、機能選択、および、ライセンスサーバの設定を合わせて行うことができます。

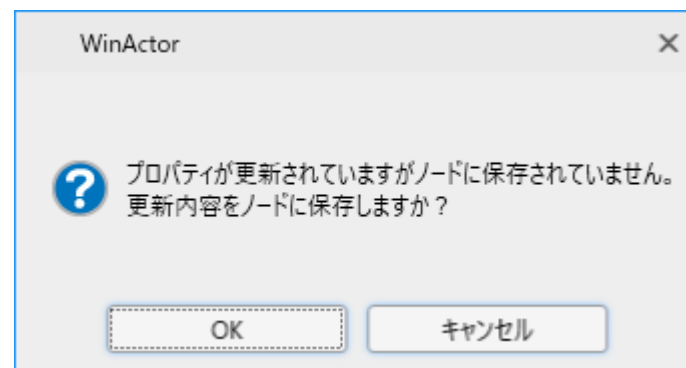
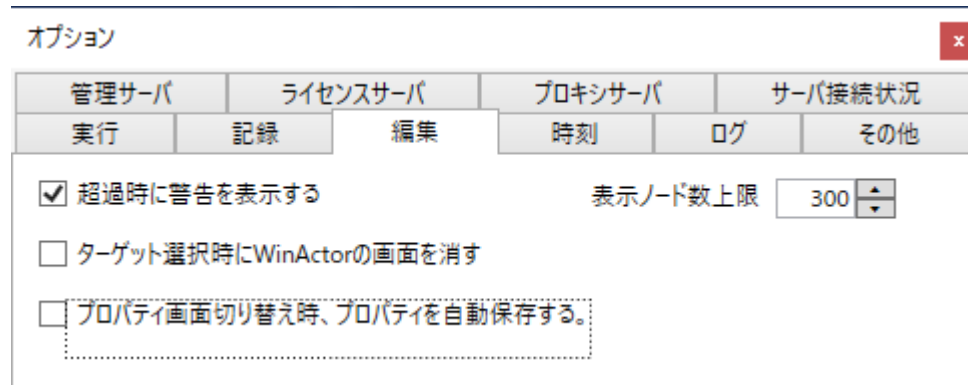
オプションダイアログ 編集タブ



オプションダイアログの編集タブに
「プロパティ画面の切り替え時、プロパティを自動保存する。」
が追加されました。

チェックがついていない場合(初期状態)、
プロパティ画面の項目の値を変更し、
「更新」ボタンが押されていない状態で、
プロパティ画面が閉じられると、
確認ダイアログが表示され、
プロパティ画面の更新内容をノードに
保存するか否かを確認することができます。

チェックがついている場合は、
確認ダイアログなしに保存が行われます。



オプションダイアログ その他タブ

オプションダイアログの編集タブに
「表示ログ行数上限」
が追加されました。



オプション ×

管理サーバ	ライセンスサーバ	プロキシサーバ	サーバ接続状況		
実行	記録	編集	時刻	ログ	その他

ノードタイトル表示幅

表示ログ行数上限

ログ管理画面にて表示されるログの行数の上限を設定することができます。
ただし、高速化のため、ログの表示行数は1行単位では管理されていないので、
ログの表示行数は100行前後ずれることがあります。

変更点(実行ファイル)



- ① 実行ファイル名をWinActor.exeからWinActor7.exeに変更しました。
- ② インストーラで作成されるショートカットおよびプログラムグループをWinActorからWinActor7に変更しました。
- ③ WinActor の複数起動を試みた場合、Ver.5またはVer.6では先に起動していたWinActor Ver.5またはVer.6を停止する事がありましたが、Ver.7では後から起動したWinActor Ver.7を終了するようにしました。
(Ver.5またはVer.6と、Ver.7の同時起動は可能です)

変更点(上限について)



Ver.7では以下の上限を撤廃しています。**Ver.6の各上限を越えたシナリオを作成することができるようになりました。**ただし、大量に設定することは実行速度等に影響を与えますので、実行環境に合わせた調整をお願いします。

- ① **変数登録数の上限**について、Ver.6では256個までとなっていましたが、Ver.7では上限を撤廃しました。
- ② **多分岐ノードの分岐数の上限**について、Ver.6では52個までとなっていましたが、Ver.7では上限を撤廃しました。
- ③ **例外処理ノードの例外処理数の上限**について、Ver.6では11個までとなっていましたが、Ver.7では上限を撤廃しました。
- ④ **監視ルール数の上限**について、Ver.6では50個までとなっていましたが、Ver.7では上限を撤廃しました。

変更点(ハイライト枠)

- ① オプション画面の「実行」タブで指定したハイライト枠の色は、実行時のみ設定された色としました(Ver.6では選択時も指定した色としています)。
- ② 文字列送信ノード等のコントロール選択にて、Officeのリボン上のコントロールを選択する場合、Ver.6ではマウスオーバ時にはリボン全体に枠が表示され、クリックしたときに該当コントロールに枠が表示されていましたが、Ver.7ではマウスオーバ時点で対象コントロールに枠が表示されるようにしました。
- ③ ノードの枠の色について、実行中のノードには青色の枠、選択されているノードには灰色の枠、エラーのあるノードには赤色の枠、ブレイクポイントが設定されているノードには橙色の枠が表示されるようにしました。

変更点(ユーザライブラリ)

- ① 組み込みのユーザライブラリに含まれるスクリプト実行ノードのバージョン情報について、Ver.6では「提供バージョン」を「NTTAT_v6.2.0」と表記していましたが、Ver.7では「バージョン」を「1.0.0」とし、WinActorの提供タイミングとは同期しないバージョン管理としました。
- ② 04_自動記録アクションの「リスト一括取得(IE)」にて、選択肢が一つもないリストをファイルに保存した場合、Ver.6では""が出力されますが、Ver.7では空のファイルを出力するようにしました。
- ③ 04_自動記録アクションの「リスト取得(Win32)」にて、何も選択されていないリストボックスは、Ver.6ではエラーとなりますが、Ver.7では、インデックス番号として-1を、文字列として空文字列を取得するようにしました。
- ④ 04_自動記録アクションの「リスト選択(Win32)」にて、インデックス番号に-1を設定したとき、Ver.6では何も選択せずエラーとなりますが、Ver.7では何も選択されていない状態に設定するようにしました。
- ⑤ 24_Java関連の「値の取得」にて、AWTおよびSwingのlabelコントロールに対応しました。
- ⑥ 99_外部サービス連携/02_HTTP関連の「HTTP」にて、POSTリクエストボディのJSONについて、Ver.6では要素が全て文字列となっていたましたが、Ver.7では、設定されている型を用いて要素を出力するようにしました。

変更点 (Java非依存化によるもの)

- ① 紀元前の日時を扱えなくしました。
- ② スクリプト実行ノードのプロパティ画面のスクリプトタブにて、扱えるVBSファイルの文字コードからCESU-8、EUC-TWを除外しました。
- ③ メニュー/ツールのZIPエンコーディングツールのプルダウンで指定できる文字コードをIS-8859-1(Latin1), UTF-8, MS932, EUC-JP, EUC-KR, EUC-CNに変更しました。

変更点(その他)

- ① Windows 10における設定情報について、Ver.6では同一PC上の全てのWindowsユーザで共通の設定情報を使用しておりましたが、Ver.7ではWindowsユーザごとに設定情報を持つように変更しました(ライセンスについては、P38を参照してください)。
- ② ユーザライブラリ管理画面にてライブラリ更新ボタンをクリックした場合、Ver.6では第一階層が閉じた状態となりましたが、Ver.7では第一階層が開いた状態としました。
- ③ 各ノードの実行時の相対パスの解釈について、(1)シナリオファイルからの相対パス、(2)WinActor7.exeからの相対パス、の順番で探索を行うよう統一しました。
- ④ エミュレーション記録中、変数一覧の「値の取得／設定」を使用不可としました。
- ⑤ イベントモードまたはIEモードでの記録中の「値の取得／設定」にて、変数一覧の変数を対象コントロールにドロップした時、ノードは作成されますが、対象のコントロールの状態は変化しないようにしました。
- ⑥ ログ管理画面の対象ノードの表示について、Ver.6ではIDのリンクをクリックしていましたが、Ver.7ではIDのリンクはなく、行全体がクリックできるようにしました。また、Ver.6ではログ一行の一部をテキストとしてコピーすることができましたが、Ver.7ではログは行単位でのテキストのコピーとしました。
- ⑦ ダイアログおよびログのメッセージについて一部見直しを行っています。
- ⑧ その他多くの細かい修正を行いました。

制約事項

制約事項 (機能面の互換性)

以下の機能はVer.7.1にて対応予定です。

- ① WinActorノート、および、ユーザライブラリ「25_WinActorノート」
- ② Cloud Library
- ③ フローチャートの全体表示を行う機能
(メインシナリオノードをクリックすることにより、
プロパティ画面に全体を表示させることができますが、
Ver.7.1では全体表示を行う専用の機能を提供する予定です)

以下の制約は対応時期未定です。

- ① データ一覧にてDB接続を行い、DB側へ日付の書き込みが発生した場合、DB接続時に設定されていたタイムゾーンが適用されます。途中でタイムゾーンの設定を変更しても反映されません。

制約事項 (処理速度について)

以下に関しては順次改善を実施します。

- ① IE操作系のノードの実行について、一部の環境ではVer.6よりも実行速度が遅くなる場合があります。
- ② ログ管理画面の表示について、ログが大量に出力されている状態で表示を試みると数秒時間がかかる場合があります。

制約事項 (デバッグ時の挙動について)

問題: 部分実行中に変数の値が正しく取得できない。

発生状況:

部分実行中の変数の取得は正常にできません。変数一覧の表示に関わらず、常に初期値が使用されます。

対策:

本問題は、Ver.7.1 にて対応します。

大変申し訳ありませんが、シナリオデバッグを行う際には、ブレイクポイントとステップ実行をご利用ください。

制約事項 (特定の環境下でご利用の際の問題について)

問題: WinActor がメモリ不足で終了する。

発生状況:

フローチャートの描画頻度が高いシナリオ (サブルーチンコールを多用したもの等) を、

1. リモートデスクトップ環境
2. 特定のアンチウイルスソフトがインストールされている環境

で、長時間走行させる場合WinActorがメモリ不足で終了する場合があります。

対策:

実行モードでシナリオファイルをロードして実行してください。シナリオ実行中のフローチャート描画が抑止されメモリの使用量が削減されます。また、シナリオの実行速度が向上します。

操作方法は、WinActor操作マニュアル「1.12 シナリオパスワード設定によるセキュリティモード」の「1.12.4 シナリオパスワード詳細動作(フル機能版)」または「1.12.5 シナリオパスワード詳細動作(実行版)」を参照してください。

* 対策は検討中ですが対応時期は未定です。

制約事項 (Outlookのご利用について)

問題: Outlookが操作できない。

発生状況:

「WinActorユーザライブラリサンプル説明書 20.1 Outlook操作」(P215)において、
「Outlookメーラ起動」の前処理として、既にOutlookが起動しているかどうかの確認用としてお使いください。同一シナリオ内で起動したOutlookの起動確認には「Outlookメーラ起動確認」の代わりに「ウィンドウ状態待機」をお使いください。

と記述しましたが、「ウィンドウ状態待機」で起動確認後でも Outlookの操作に失敗する場合があります。

対策:

Outlook起動後にウィンドウフォーカスの変更を行うと改善することが報告されています。
Outlook起動後に「01_WinActor制御/01_WinActorウィンドウ操作/WinActorウィンドウを最小化」と「01_WinActor制御/01_WinActorウィンドウ操作/WinActorウィンドウを元に戻す」を順番に呼び出すことにより改善することがあります。

* Ver.7.1にて対応予定です。

制約事項 (互換性について)

WinActor Ver.7は、WinActor Ver.5およびVer.6で作成したシナリオファイル(拡張子がums5またはums6)を読み込むことが可能ですが、次の機能を含むシナリオファイルを実行することはできません。(Ver.7.1にて対応予定)

- ① WinActorノート
- ② Cloud Library
- ③ Ver.6.3の新機能

また、Ver.6とVer.7では、**シナリオの実行速度、画面の描画タイミング、画面の表示位置**が異なるため、これらに依存するシナリオファイルはVer.6と同様には実行できない可能性があります。(Ver.7.1以降も残る予定)

その他のシナリオ実行に差異を生じる要因に関しては、本リリースノートに記述してあります。

WinActor Ver.5またはVer.6 のシナリオファイルを読み込んだ後に WinActor Ver.7で保存すると、保存したファイルの拡張子は ums7 となり、WinActor Ver.5およびWinActor Ver.6では読み込むことはできませんのでご注意ください。(Ver.7.1以降も残る予定)

制約事項 (ライセンスについて)

WinActor Ver.7.0は、WinActor Ver.5またはVer.6と同じPCで同時に使用することが可能です（Ver.5とVer.6は同時に使用することはできません）。但し、同時にシナリオ実行した場合の動作は保証できません。またライセンスに関して以下の制約があります。

1. ノードロックライセンス版では、一つのライセンスで WinActor Ver.5 または Ver.6 と、WinActor Ver.7.0 を使用することができます。フローティングライセンス版では、WinActor Ver.5 または Ver.6 と、WinActor Ver.7.0 のそれぞれにライセンスが必要になります。
2. WinActor Ver.5 または Ver.6 は、WinActor Ver.7.0 より先にインストールする必要があります。
3. WinActor Ver.5 または Ver.6 と、WinActor Ver.7.0 は、それぞれ異なるフォルダにインストールする必要があります。

Ver.5 または Ver.6 を管理ユーザ用インストーラを用いてインストールした場合は、利用開始日が共有されます。従って、Ver.5 または Ver.6 の利用期間終了とともに、Ver.7.0 の利用期間も終了します。

ノードロックライセンス版で、一つのライセンスで WinActor Ver.5 または Ver.6 と WinActor Ver.7.0 を使用する場合は、以下の環境において「ライセンス引き継ぎ作業」(次ページに記述)が必要になります。

- A) OSが **Windows 10** であり、且つ WinActor Ver.5 または Ver.6 を**標準ユーザ用インストーラ**を用いてインストールした場合
- B) A)の環境で WinActor Ver.5 または Ver.6 のアップデート等で**再インストール**や**ライセンスの更新**を行った場合
- C) A)の環境で、WinActor Ver.7.0 を**再インストール**や**ライセンスクリア**を行った場合

➤ OSがWindows Server2016 である場合、または、WinActor Ver.5 または Ver.6 を管理ユーザ用インストーラを用いてインストールした場合は、「ライセンス引き継ぎ作業」は不要です。

ライセンス引き継ぎ作業

ノードロックライセンス版で、OS が Windows10 で、WinActor Ver.5 または Ver.6 を標準ユーザ用インストーラを用いてインストールした場合に、一つのライセンスで WinActor Ver.5 または Ver.6 と WinActor Ver.7.0 を使用する場合は、あらかじめ以下の作業を行う必要があります。詳細は「制約事項(ライセンスについて)」をご参照ください。

1. WinActor Ver.5 または Ver.6 を終了させます。
2. WinActor Ver.7.0 の「バージョン」画面を表示させます(右図)。
3. 「Ver.5またはVer.6からコピーしてライセンス登録」ボタンをクリックします。
4. インストール済みの Ver.5 または Ver.6 の WinActor.exeを指定します。

以上

バージョン情報

WinActor 7.0.0

(C) 日本電信電話株式会社 2013,2014

(C) NTTアドバンステクノロジー株式会社 2014-2019

製品ライセンスで動作しています。

使用期限は2020/01/31 23:59:59+09:00です。

製品IDをファイルに出力

製品IDをクリップボードコピー

ライセンス登録

ライセンスのクリア

Ver.5またはVer.6からコピーしてライセンス登録

OK

WinActor Ver.7.0.1リリースノート

NTTアドバンステクノロジー株式会社

Copyright(c) 2013-2020 NTT Corp. & NTT Advanced Technology Corp. All Rights Reserved.

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは禁じられています。
本書の内容は予告なく変更される場合があります。

64-G-0130